

その 1 品はやはり枝打ち品であった。また科学博物館所蔵のスマレ *V. mandshurica* W. Becker の標本中に 1894 年 4 月 3 日に伊藤篤太郎氏が薩摩指宿で採集した 1 個体が枝打ちであることをみいだした。注意して観察すれば或は他の種にも、このような傾向がみられるかも知れない。  
(国立科学博物館)

○再びムラサキツクサの開花について (水島正美) Masami MIZUSHIMA:  
Again on the flowering of *Tradescantia*.

本誌 45 卷 232 頁に、ムラサキツクサの開花現象についての興味ある記事がある。それを読むと、今日咲いた或 1 個の花が夜に閉じ、翌朝再び開くというように受け取れる。然しムラサキツクサは一日花であるから、翌朝に開くのは同一花序中の別の花である。此の点はツクサ、イボクサ、ヤブミョウガと同じである。

(東京都立大学・牧野標本館)

□牧野富太郎: 牧野富太郎選集 全 5 巻 B 6 各 800 円 東京美術。牧野先生の随筆と随想は多くの単行本におさめられているが、重複をはぶき編集し直して 5 巻にまとめたものである。第 1 巻 (4 月)、第 2 巻 (5 月)、第 3 巻 (6 月)、第 4 巻 (7 月) は既刊、第 5 巻は 9 月に発行の予定。第 1 巻のあと書きを牧野鶴代さんが書いているが、間もなく亡くなられた。第 5 巻には植物名の総索引がつくとのこと。これを通読して感ずることは、牧野先生のものの考え方や文章の表現形式など、ことの真髄をつく一面、稚氣満々のところもあり、まことに自由奔放、わが道を行く気分が横溢している。先生に直面しているような錯覚にうたれる。しかし、先生を知らない戦後のふつうの若者にどうかと疑問をもったが、編集子によれば「結構おもしろく読まれ、売行きも悪くない」とのことで、考えさせられる。  
(佐竹義輔)

□守屋忠之: 武甲山植物誌, B 5 判, プレート, 39 pp. Aug. 25, 1970. 石灰岩の山として有名な秩父武甲山のフロラがまとめられた。古くは松村任三先生の採集記があり、最近では著者らのリストが一部北陸の植物に発表されていたが、完成されたものはなかった。131 科 913 種類が挙げられ、注目すべき種類として、ここがタイプロカリテイとなっているミヤマスカシユリ、プロウマメザクラなど 22 種類が解説されている。オオメシダ、ミヤマナミキ、チチブミネバリなどの新産地報告も含まれている。著者 (埼玉県秩父市近戸町 4-23) によれば、一部 500 円でおわけできるとのことである。  
(大橋広好)